

# 絵本通じて環境考えて

作者藤さんと原さん 市立全小に贈る

気候変動が進む中、森を守る大切さをテーマに、子どもたちに環境について考



藤さん(左)と原さん(中)から絵本を寄贈された坪田教育長(右) 市役所で

えてもらう絵本が市立小学校全校に寄贈された。寄贈したのは絵本の作者で千種

区在住の童話作家の藤真知子さんと、元天白区政協力委員協議会議長の原宏さん(82)。2人は11日、市役所を訪れ、坪田知広教育長から市長感謝状が贈られた。

絵本は、愛知万博のあった2005年に発行された「モットしゃちょうとモリバーバのもり」(ポプラ社刊)。金もつけのために森林を開発して牧場を造成した「モットしゃちょう」に住民も同調するが、森の神の「モリバーバ」が怒り、日照りや洪水が起きるといふ物語だ。発売直後から中

国、韓国、台湾で相次いで翻訳された。

藤さんは「子どもたちは森を守ることが大切だということとは理解しているが、理由が分からない。森が街の人たちの暮らしを支えていることを分かってほしい」と話した。原さんは藤さんと交流があり「ぜひ、名古屋の子どもたちにも読んでもらいたい」と思ったと寄贈の理由を語った。

坪田教育長は「子どもたちの環境への学びが進むことを」と謝意を述べた。

16日午前10時～午後4時、「環境デー」などや20

23」の一環として、栄の久屋大通公園エンゼル広場で、絵本の読み聞かせなどがある。  
(菊台隆文)